

## 学会記事

### 第46回徳島医学会賞及び第25回若手奨励賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなり、初期臨床研修医を対象とした若手奨励賞は第238回徳島医学会平成20年度冬期学術集会（平成20年2月15日、長井記念ホール）から設けられることとなりました。徳島医学会賞は原則として年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各回ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られ、若手奨励賞は原則として応募演題の中から最も優れた研究に対して2名に贈られます。

第46回徳島医学会賞および第25回若手奨励賞は次に記す方々に決定いたしました。受賞者の方々には第263回徳島医学会学術集会（夏期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金及び記念品）が授与されます。

#### 徳島医学会賞 （大学関係者）



氏 名：齋藤 裕  
生 年 月 日：昭和57年10月1日  
出 身 大 学：徳島大学医学部医学  
科  
所 属：徳島大学病院消化  
器・移植外科

研 究 内 容：ヒト脂肪由来間葉系幹細胞から肝細胞様細胞の創出 - 肝不全・代謝性肝疾患に対する肝移植から細胞治療へ -

受賞にあたり：

この度は第46回徳島医学会賞に選考いただき誠にありがとうございます。選考いただきました諸先生方、並びに関係者各位の皆様へ深く御礼申し上げます。

重症肝疾患に対する肝移植・肝細胞移植ともに、ドナー不足のため特に日本においてはその実施は依然限られています。その根本的解決策の1つとして、新たなドナーソースであるiPS細胞・ES細胞・間葉系幹細胞（MSC）を用いた再生医療が挙げられます。遺伝子操

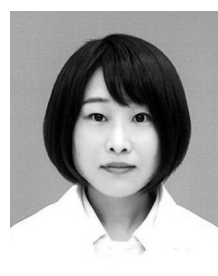
作不要でかつ倫理的問題もないMSCはiPS/ES細胞と比較して臨床応用には適しており、さらに、脂肪由来間葉系幹細胞（ADSC）はより低侵襲に患者さんから採取可能であります。われわれは、肝障害モデルマウスに対して、ADSC移植がTrophic効果（*Saito Y, et al. J Surg Res. 2013*）及びHoming効果（*Saito Y, et al. JHBPS. 2014*）を有し、肝障害を軽減し肝再生を促進することを既に報告しています。

ただし、未分化なADSCのみの移植では、急性期の肝障害の軽減効果はあるものの、長期的な効果は不十分でありました。そのため、現在はADSCを特殊な培養条件を用いて、肝細胞機能を有する肝細胞様細胞（HLC）へと分化誘導し、より本物の肝細胞機能に近づけるように、“Tokushima protocol”の作成に努めています（*Saito Y, et al. Surg Today. 2021, JHBPS 2021*）。

ちなみに、尿素サイクル異常症・シユウ酸尿症のような一部の代謝性肝疾患では、肝臓自体には構造的な異常を起こさず、単一の酵素欠損が原因となるため、HLC移植が根治療法ともなり得ます。今後は、疾患モデル動物への移植による効果を検証し、より品質の高い安全なHLCを大量生産できる体制を整え、最終的には臨床応用を目指していければと考えております。

最後になりましたが、このような貴重な研究経験を与えてくださり、御指導賜りました島田光生教授、池本哲也特任教授をはじめとする教室の先生方に深く感謝申し上げます。また、共同研究者として御協力賜りました生体機能学分野の親泊政一教授、三宅雅人先生にこの場をお借りして心より厚く御礼申し上げます。

#### （医師会関係者）



氏 名：折野亜衣  
出 身 大 学：神戸女子大学家政学  
部管理栄養士養成課程  
所 属：平成博愛会博愛記念  
病院栄養科

研 究 内 容：骨卒中みそ汁提供による25-OHビタミンD改善への取り組み

受賞にあたり：

この度は第46回徳島医学会賞にご選考いただき誠にありがとうございます。ご選考頂きました諸先生方、並びに関係者の皆様へ深く感謝申し上げます。

ビタミンDは腸管からのCa吸収を高めることが知られており、その効果により骨折の予防が期待できます。またビタミンDの欠乏がサルコペニアやフレイルなどの健康寿命の低下に関与すると報告されており、ビタミンDを摂取する効果が注目されています。

当院は慢性期病院に介護施設を併設しているため高齢者が多数を占めています。入院中・入所中の方は日照の曝露機会に乏しく皮膚からのVD供給量が低下している為、骨粗鬆症はもちろん、ビタミンD欠乏・不足状態の方が多く存在しています。現状では、一次骨折の治療後に二次骨折等で再入院したり、介護骨折を併発したりと骨折に伴うADL低下をきたす方が多くいらっしゃいます。その状況改善の為、骨折予防、ADL・QOL向上などを目標とした多職種によるOLS(骨粗鬆症リエゾンサービス)活動を2018年に開始いたしました。メンバーは医師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、事務職員です。

OLS活動を行う中で、ビタミンDを患者さんに負担とならない形で補給したく、『乳カル酵素 ファイバー®』2gを1日1回汁物に添加することとしました。これをOLSメンバーで『骨卒中みそ汁』と名付け、当院の回復期リハビリテーション病棟入院中のVD不足・欠乏状態の方へ2020年1月より提供を開始しました。

今回の研究では、栄養療法を徹底することにより血清25OHビタミンDの上昇が見られ、それに付随して握力の向上も認められました。

今後の展望としてはOLSメンバーと連携しながら骨折予防はもちろん、ADL・QOLに及ぼす効果についても検証していきたいと考えています。

最後になりましたが、このような貴重な研究経験及び発表の機会を与您とごさり、またご指導賜りました博愛記念病院の元木先生はじめ、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

#### 若手奨励賞



氏名：三宅(濱田) 哲有  
生年月日：平成8年3月29日  
出身大学：自治医科大学医学部  
所属：徳島県立中央病院医学教育センター

研究内容：腸管子宮内膜症により腸閉塞・敗血症性ショックを来し、経肛門的イレウス管で

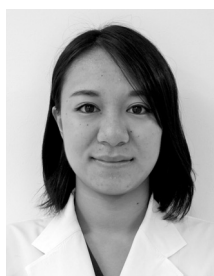
#### の減圧後待期的手術を行った一例

受賞にあたり：

この度は徳島医学会第25回若手奨励賞に選出頂き、誠にありがとうございます。選考いただいた先生方、並びに関係者各位の皆様に深く感謝申し上げます。

今回の症例は、子宮内膜症による子宮外病変により腸閉塞をきたした症例です。来院時ショックをきたしており、早急に治療介入を必要とする状態でした。大腸子宮内膜症による腸閉塞に関する過去の症例報告では、半数以上で緊急のハルトマン手術や開腹手術が行われていました。しかしながら良性の結腸閉塞では経肛門イレウスチューブによる減圧処置の有効性が報告されています。今回経験した症例では経肛門的イレウス管挿入を行い、全身状態を改善させ手術に臨むことができました。今後は子宮内膜症などによる良性大腸狭窄に対しイレウス管挿入が考慮されると思われます。

最後になりましたが、今回このような貴重な発表の機会を与您とごさり、ご指導賜りました徳島県立中央病院の大村先生をはじめ、外科の先生方に心よりの感謝を申し上げます。



氏名：木村 蘭子  
生年月日：平成6年5月12日  
出身大学：徳島大学  
所属：徳島大学病院卒後臨床研修センター

研究内容：繰り返す脆弱性骨折を契機に発見されたクッシング症候群の一例

受賞にあたり：

この度は徳島医学会第25回若手奨励賞に選考いただき、誠にありがとうございます。選考していただきました先生方、並びに関係者各位の皆様に深く感謝申し上げます。

今回の症例では、咳嗽による肋骨骨折やダンス中の左第2中足骨疲労骨折などの若年女性ではほとんど起こり得ない骨折を繰り返していました。

クッシング症候群の症候として骨粗鬆症を発症することはよく知られていますが、逆に骨粗鬆症患者を診た際にクッシング症候群を鑑別に挙げることも重要です。続発性骨粗鬆症の原因として、クッシング症候群、ビタミンD欠乏、ステロイド長期内服や、甲状腺機能亢進症、性腺機能低下症、などが挙げられます。続発性骨粗鬆症

はその多くが治療可能であり、患者の QOL の向上が望めます。

スペインの大学病院で行われた研究では、骨粗鬆症を呈する閉経前女性のうち約10%がクッシング症候群で、続発性骨粗鬆症の原因疾患として最も多かったとの報告があります。

よって一般外来においても、若年者の骨粗鬆症の原因検索目的に ACTH、コルチゾールをスクリーニングとして検査する意義は大きいと考えられます。

今回の症例を通して、閉経前女性における骨粗鬆症は続発性である可能性が高く、治療により改善が可能なため、原因疾患としてクッシング症候群を鑑別に挙げる重要性を学ぶことができました。

最後になりましたが、このような貴重な経験および発表の機会を与えてくださり、ご指導賜りました徳島大学病院の倉橋清衛先生、安倍正博先生をはじめとする先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。